

折に触れ 四字熟語

NO. 22 『九仞之功』 きゅうじんのこう

< 意味 > あらかた完成したのに、最後にちょっと気をゆるめたために失敗するたとえ。
「九仞きゅうじんの功を一簣いっさいに虧かく」のことわざで知られる。

< 出典 > 「書経」<旅獒りよごう>

為山九仞、功虧一簣

読み下し：『山を為つくること九仞、功一簣に虧く。』

通 積： 山を作るのに九仞の高さになっても、最後の一もっこをやめれば、仕事は出来上がらないようなもの。

語 積： 仞は高さ深さの単位で、七尺あるいは八尺ともいわれています。尋は両手を横にのばした長さなのに対し、仞は両手を縦にのばした長さ。簣は土を盛るもっこ。

一 言： アメリカの大統領選挙が全世界驚きの結果になったことは、NO. 21 で取り上げましたが、その続きになります。

ヒラリー・クリントンとしては、あれだけマスコミも接戦ではあるものの最終的にはクリントンが勝利するだろうと報じていましたし、後悔のほぞを噛んでいることでしょう。「気をゆるめた」訳では無いでしょうが、最後の何かが足りなかったのでしょうか。

なお、この出典から別の観点から見た四字熟語もあります。

「一簣之功(いっきのこう)」仕事が完成する寸前の最後の努力のこと、その大切さをいう。

参照文献： 新釈漢文大系「書経」 岩波書店「四字熟語辞典」 三省堂「四字熟語辞典」